

二〇二四年度 入学試験問題

国語

第三回

【注 意】

- ・ 試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・ 問題は一ページから十ページまでです。
- ・ 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- ・ 字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・ 記号・句読点がある場合は字数に含みます。
- ・ 解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

ここで、なぜこうした講義を行っているのか、そのことを話しておきたいと思います。

僕がなぜ皆さんに、サブカルチャーを題材にして話をしているのか。その狙いは、想像力の訓練です。

想像力の訓練とは、別に皆さんに、アニメや映画をつくるためや、マンガを描いてもらうためのイメージーションを「ヤシナ」ってもらおう、様々なフィクションの話をしているという意味ではありません。

例えば『君の名は。』は、つくり話で、荒唐無稽と言えば、まったく荒唐無稽の話。『デスノート』は、さらにもっと荒唐無稽です。よりリアリズムに則っている、『シン・ゴジラ』でも、もちろん現実にあるような話ではない。

ただのつくり話ですが、しかしそうしたつくり話は、われわれの現実の社会のあるべき姿、あってほしい姿、あるいはこういうことになりうるだろうという予想、そうした現実に対する想像力が込められている。

この想像力について、僕はもう少し難しく、「構想力」という言葉を使うことを好みます。英語ではどちらもイメージーションです。

(1) そうした現実の社会に対する構想力を鍛えるためには、普通の現実よりも、むしろフィクションを題材にしたほうがいい。

二〇一六年という年は、世界的に見ると二つの予想外の投票がありました。その二つの投票は、後に振り返って見ると、大きな歴史の転換点の始まりだった、と受け止められるような出来事だったのかもしれない。

その一つはもちろん、六月にあったイギリスのEU離脱問題です。Britishとexit。それで、ブレグジットBrexitと呼ばれます。その結果は相対意外で、離脱派が支持されるとは思わなかった。

A この投票のおよそ半年後、今度はアメリカで、トランプが大統領に選ばれました。出馬した当時では、こんな結果は誰も予想していませんでした。投票以前は、ほとんどすべての人が、クリントンを支持しているように見えていた。B、クリントンの支持者には、どんな「主義者」も含めて、すべての立場の人が入っているのです。

★ ウォールストリートでバリバリ働いているエリートも入るし、逆に「オキュパイ・ウォールストリート」と言って、金融資本主義を批判するよう

な運動家も、入っている。もちろんフェミニストも入るし、反人種差別主義的な人たちも入っている。★ LGBTの人もある。もうすべての人が入っていて、最後には共和党の重鎮ですら、クリントンを支持するようになるわけです。

そうすると、もうトランプの取り分はない。(2) しかし、それなのにトランプが勝ってしまった。これはどうしてなのでしょうか。

われわれが今持っている、「こうした社会になってほしい」という構想力は、結局、全部、クリントン支持の立場の中にあつたわけです。ところが、クリントンは負けた。ということは、この構想力から漏れている何かがある。

つまり、われわれの構想力は、現実完全に負けていた。現実の問題をすくい上げる構想力が大幅に欠けている感じがするのです。だから構想力をふくらませようということなのです。

EUについても同じことが言えます。EUに関しては、イギリスの離脱が決まった結果、様々な議論がありました。

中でも「イギリスはバカな選択をした。これからイギリスは困ることになるぞ」という議論は多い。しかし、その「困る」ということが、もし経済の問題であるならば、イギリスはそれほど困らない。イギリス国内一国の事情として見れば、それほど大きなソン失はなく、困るのはむしろEUのほうであると、僕は感じます。

イギリスにとって得であるか、ソンであるか、経済の詳細については他に任せることにして、一番大事なことを述べると、「EUという試みそのものにかけられているユートピア的構想力にとって、イギリスの離脱はダメージが大きい」。僕はそう考えます。

EUとは何か。(3) 何を指してEUはつくられたのか。もちろんもとをたたせば、ドイツとフランスの間にある石炭産出地の「キゾク問題」のようなことから始まっていた。しかし、そうした細かいことを抜きに、この試みにある一番の理想を考えると、「移動の自由」が挙げられると思います。

この場合の移動の自由とは、どこにでも旅行に行けるといふような意味ではなく、好きなのところに住むことができる自由。好きなのところに行き、そこで働いて、暮らすことができるという意味での自由です。

好きなのところに、好きなように住むことができる。これは人間の自由の中でも、表現の自由などと並んで、特に重要な自由の一つです。

実際には、われわれはまだ、完璧な移動の自由は持っていない。そこで大きな「シヨウガイブツ」になっているのは、国籍です。その国籍の制限があるために、勝手に外国で仕事をして、自由に住み着いたりすることはできない。

しかしその制限をできるだけゆるくして、国境を越えて、移動の自由を確保する。それがEUの理念の、一番重要な部分ではないでしょうか。

それはヨーロッパの話だろう、我々、東アジアの端にいる日本には関係がないと感じる人もいられるかもしれません。しかし、このように考えてみてください。

EUは実際、域内のメンバーに対し移動の自由を確保しています。国境を越えて移動し、そこで仕事をする事ができるのです。

EUはもともと数カ国のコアな国から始まって、どんどん大きくなってきたものです。すでになりに大きくなって、もうロシアの手前まで行っている。では、これをもシグロバルに拡張できたら、どうでしょう？

そうしたら、地球規模で移動の自由が実現する。もう国籍など関係なしに、好きなところで働き、暮らすことができるようになるのです。

これこそ、人類が目指すべき理想の社会。だからEUとは、言ってみれば、人類が最終的に目指す理想を、先取りして、部分的に実験している試みでもあったわけです。だからこそEUは重要なのです。

ここで実験されているのは、ユーラシア大陸の西の端のローカルな問題ではない。もしいつの日か地球規模で実現した時、自由な、ユートピア的な世界が生まれる。そうした試みです。

なぜそのEUが今、難民問題で苦戦しているかというと、背景として、EUの人々の中に「門戸を閉ざす」とは言っても、本来は受け入れるべき」という感覚が、どこかにあるからです。

門戸を閉ざすべきだと言っている人も、あくまで必要悪として、仕方がない、と考えている。閉ざすことが理想的だと主張しているわけではない。

逆にもっと、どんどん受け入れてもいいんだという人もいます。
(4) 日本人の感覚で言うと、そんなに困るのならば受け入れなければいい、となる。しかしそうではないのです。

難民を受け入れる、受け入れないは、トウカな選択肢ではない。もともととは、受け入れたいという気持ちがあった上で、しかし現実的な問題があった、論議が行われている。

95

90

85

80

75

70

65

人間に移動の自由を保障する。好きな場所で、好きなように仕事ができる。そうした社会を目指している。今のところは域内のメンバーだけにそれを認めています。いずれば、すべての人に認めなければならないはずだ、という気持ちがある。

そのことを忘れてはいけない。だからこそ、イギリスの離脱にインパクトがあるのです。本来であればEUの試みの先に未来のユートピアがあるはずが、それが難民問題どころか、コアメンバーの中で否定されてしまった。

イギリスが離脱すると、かつてのようにイギリスに移動することは、難しくなる。EUのメンバーでさえも、再び国境を戻したわけです。C、

一〇〇年ぐらいの先に垣間見えていたユートピアが、一番コアな部分で否定されてしまった。

グローバルな資本主義とは、情報とモノと人の移動がグローバルに自由になることです。しかし実際には、一番簡単に地球上を動き回るのは、情報です。情報は、すでに移動の自由をほぼ獲得している。その次が商品です。商品についてはまだまだ問題がありますが、しかし世界中で、さまざまな商品が手に入るようになりました。

しかしそれらに比べると、人間の移動の自由はかなり小さい。だからEUとは、言ってみれば、商品が享受しているのと同じ移動の自由を、人間そのものに与えようとしている。それこそが、最も理想的な、自由な社会ではないか、という構想です。

しかしその構想が、一番コアのところまで否定されてしまった。イギリスの離脱とは、そうした問題です。

さて、もう一度、トランプの問題についても話しておきます。
先ほど話したように、クリントンを支持する側は、すべての立場の人が入っていた。

クリントン側の政治的立場を要約すると、多文化主義的共存です。どんな立場の人たちも、共に仲良く、お互い許し合って、共存しようといった考え方です。

こうした多文化主義的共存を許す姿勢のことを、アメリカではPC、ポリテイカル・コレクトネスと言う。日本語で言えば、政治的公正性です。

人種の区別もなく、男女の区別もなく、どんな宗教の人も、移民も含めて、寛容に、多文化的に共存する。これほど結構な思想はない。だから結構な

130

125

120

115

110

105

100

ことを言う人は、クリントンを支持するしかないわけですが。

しかしこの結構な思想が、どこか胡散臭いぞという感覚があった。

具体的な例を挙げると、★アップル社のCEO、タイム・クックが、自分が同性愛者であることをカミングアウトして、その上で、いわゆる性的マイノリティ、LGBTの人たちを応援するための手記を公表した。そのことはメディアで話題となり、世間にも称賛されました。多文化主義的です。PCです。何の文句もないです。正しい。正しすぎるが、しかし、どこか胡散臭い。

彼は、超エリートでアップル社のCEO。そのアップル社の製品をつくっているのは、★シャープを買ったことで有名になった、鴻海という、台湾の会社です。その工場が、アップル社の製品の多くをつくっている。

なぜ鴻海でつくるのかというと、アメリカから見れば労働力が滅茶苦茶安いからであり、はつきり言うと、超低賃金の労働者を働かせているわけです。

LGBTの味方をするのもいいだろう。同性愛者であることに對する偏見を持つべきではないと言っているのもいいだろう。

D、そう言いつつ、おまえの会社は、極端な低賃金で働いているアジアの労働者を大量に搾取している。それと同時にアメリカの労働者から仕事を奪っている。そうした状況に、何かとんでもないアンバランスを感じるわけです。

トランプが勝ったあの大統領選挙は、昔、★マルクス主義者がよく使っていた言葉を使えば、階級闘争でした。

一方に★エスタブリッシュメントの人たちがいる。他方で白人の、本当は超貧乏というわけではないのですが、やや恵まれていない労働者がいる。この両者の階級闘争なのです——、というようなことは、誰でも語る。

問題は、この階級闘争がずらされていること。このことに気づくのが、一番重要です。

クリントン側は、階級のことなど、何も語っていない。さまざまな民族や人種、宗教の共存、さまざまなアイデンティティの承認など、むしろ文化的なことを中心に語っています。だからどこにも階級闘争の要素はないのですが、どこか胡散臭い。

つまり、クリントン支持者は、PCに則って、LGBTの応援をする。それは暗黙のうちに、では、その主張を認めない人、性的マイノリティに

冷たい人、あるいはフェミニズムに対して冷たい人は、遅れていて無教養の奴だ、という印象をもたらしていた。

つまり多文化主義的な主張をする人は、暗黙のうちに自分たちはエリートで、教養があつて、進んでいる、という自己イメージを持ち、それを態度で示している。これについていけない奴は、伝統的で、保守的で、遅れている。無教養で、不寛容で、下層階級だ。そうしたイメージです。

PCは、かつこい。しかしそれについていけない人は、下層階級で、教養がないというイメージを裏腹に持っている。そこに暗黙の

(5)

隠れトランプはいるのに、隠れクリントンはなぜいないのか。なぜかというところ、トランプ支持だと公言すると、自分は遅れていて、無教養で、不寛容で、保守的だと見られるからです。逆に言うと、クリントンを支持しているとただで、どこかエリートで、進んでいて、かつこい。ここに、階級的なものがあるのです。ずらされた階級闘争です。

この講義は、このような問題を乗り越えるための、イマジネーションの訓練なのです。

(大澤真幸『サブカルルの想像力は資本主義を超えるか』)

★サブカルチャー……………ある社会を支配する正統的・伝統的な文化に對し、その社会の一部の特定の人々だけの独特の文化。若者文化、大衆文化など。

★『君の名は。』……………二〇一六年公開のアニメ映画。

★『デスノート』……………二〇〇三年から二〇〇六年に連載された少年漫画。

★『シン・ゴジラ』……………二〇一六年公開の怪獣映画。

★トランプ……………アメリカ共和党の政治家・実業家、ドナルド・トランプ（一九四六～）。

★クリントン……………アメリカ民主党の政治家、ヒラリー・クリントン（一九四七～）。

★ウォールストリート……………アメリカのニューヨーク市にある、株式取引所・証券会社・銀行・商社などが集中する世界金融の中心地。

★フェミニスト……………女性解放論者。

★LGBT……レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダーの略で、性的少数者の総称。

★アップル社……アメリカのテクノロジー企業。代表的な商品はiPhone、Macなど。

★CEO……最高経営責任者。

★シャープ……日本の電気機器メーカー。

★マルクス主義……マルクス（一八一八〜一八八三）およびエン

ゲルス（一八二〇〜一八九五）によって確立された科学的社会資本主義思想の体系。資本主義の矛盾を分析し、労働者階級による社会主義社会の実現を主張する。

★エスタブリッシュメント……社会的に確立した体制や制度、またそれらを代表する支配階級のこと。

問一 —— (1) 「そうした現実の社会に対する構想力を鍛えるためには、普通の現実よりも、むしろフィクションを題材にしたほうがいい。」とあり

ますが、「現実の社会に対する構想力」を鍛えるために「フィクションを題材にしたほうがいい」のはなぜですか。三行以内で説明しなさい。

問二

—— (2) 「しかし、それなのにトランプが勝ってしまった。」とありますが、なぜトランプが勝ったと筆者は述べていますか。次のア〜エの中から、最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア クリントン側は人種や性別の区別もなく寛容に人々を受け入れる多文化主義的共存を支持しているが、存在を無視された多文化主義共存を容認できない多くの人たちが反発し、対抗するトランプを支持したから。

イ 二〇一六年の大統領選は階級闘争であったのに、クリントン側は人種や民族、LGBTのことなど理想ばかり語っていたため、現実を見ていないと感じた多くの人々がトランプに賛同したから。

ウ クリントンを支持する人たちが多文化主義的共存を掲げているから一方で労働力を搾取していたり雇用を奪ったりしていることに疑問を持った多くの人々が、トランプ支持に回ったから。

エ クリントン側はポリテイカル・コレクトネスの立場をとりながら暗黙のうちにPCに反対する人々への優越感を持っており、見下されたと感じたPCに反対する多くの人々がトランプ側に賛同したから。

問三

—— (3) 「何を指してEUはつくられたのか。」とありますが、EUはどのようなことを指してつくられたと筆者は述べていますか。三行以内で説明しなさい。

問四

—— (4) 「日本人の感覚で言うと、そんなに困るのならば受け入れなければいい、となる。」とありますが、なぜそう言えるのですか。次のア〜エの中から、最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本は島国なので、陸続きのヨーロッパと違い移民が入ってくるのが少なく、移民の問題に対して真剣に考えられないから。

イ 日本にはヨーロッパと違い、人間の移動の自由を理想と掲げる考えがなく移動を制限することに抵抗がないから。

ウ 日本は伝統的に集団の調和を優先する心性があり、移民よりも自分たちの集団が困らないようにしようと考えているから。

エ 移民の問題を抱えるヨーロッパは西にある地域であり、東の端にある日本にとっては移民の問題は重要ではないから。

問五

(5) に入る五字以内の表現を本文から抜き出して答えなさい。

問六

元子さんのクラスでは国語の授業で最近話題になった映画についての作文を書く課題があり、【生徒Aさん】と【生徒Bさん】がそれぞれ作文を発表しました。そこで元子さんはその二つの作文と本文の筆者の主張との間には関係があると考えました。どのような点で関係があると言えますか。文末を「:という点。」という形にして、三行以内で説明しなさい。【生徒Aさん】と【生徒Bさん】の作文は次の通りです。

【生徒Aさん】

ディズニーが二〇二三年に公開した映画『リトル・マーメイド』は、一九八九年に同社が公開したアニメ映画の実写版だが、そのキャストティングをめぐって反発の声が上がった。主人公アリエルはアニメ版では赤毛で青い目を持つ白人のような容姿であるが、実写版ではアフリカ系の俳優が起用されたのである。インターネット上では「黒人のアリエルはアリエルではない」との声上がり、「Not My Ariel (私のアリエルではない)」というフレーズが多く投稿された。一方で、「人魚やプリンセスは白人である」という固定観念を打破したことや、主演キャストが白人ばかりであった今までのハリウッド映画のあり方を変えようとしたことが、ポリティカル・コレクトネスに配慮した作品であるとして評価する声もある。このようにアメリカ国内では次第に受け入れられる動きも出てきたなか、注目したいのは東アジアの国の人々の反応である。東アジアの国々では黒人のアリエルに強い反発を覚える声が多かったのである。なかにはアリエルが黒人であることによって映画が「台無し」になったとのレビューもあった。根底には、これまでのディズニープリンセスの多くが白人であったことがあると考えられる。『白雪姫』に始まり『シンデレラ』『美女と野獣』などのプリンセスは全て白人であり、有色人種のプリンセスが登場するのは一九九二年の『アラジン』が初めてであった(しかしこれも描き方が中東系のステレオタイプであると批判されている)。欧米諸国の根強い人種差別の解決と同様に、欧米諸国の作品によって東アジアなどの国々に刷り込まれた古いイメージの刷新も課題である。

【生徒Bさん】

アメリカの人気着せ替え人形を題材にした映画『バービー』のキャンペーン活動をめぐり、日本国内から批判の声が多く上がった。発端は『バービー』のアメリカの配給会社が運営するキャンペーン用公式SNSアカウントが、ある画像の投稿に対して好意的な反応をしたことだ。アメリカでは『バービー』と同日に「原爆の父」と呼ばれる人物の伝記映画『オッペンハイマー』が公開されることをきっかけにして、ファンたちが二つの映画を合わせて「バーベンハイマー」と呼び、二つの映画のイメージを掛け合わせた画像が人気を集めてインターネットに多数投稿されている。そのなかの一つであったバービーたちの背景で原爆が爆発している画像の投稿に『バービー』の公式アカウントが「忘れられない夏になる」と好意的なコメントをしたのだ。それ以前からきこ雲などをポップにモチーフとするなどしていた「バーベンハイマー」の動きに対しては日本国内から疑問視する声があったが、公式アカウントが半ば「容認」したことさらに大きな批判となった。日本の配給会社はアメリカの公式アカウントの反応を「配慮に欠けた反応」と批判、抗議する文書を発表した。今回の問題は、ナチスによる虐殺や九・一一と違い、原爆に関するアメリカ社会の当事者意識のなさが露呈したものだという批判もあった。『バービー』という映画自体は、性別による生きづらさを主題にするなどポリティカル・コレクトネスに配慮した映画であると話題になっていた。

問七

A D に入れる語としてふさわしいものを、次のア～エの中からそれぞれ一つ選びなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア つまり イ しかし ウ なぜなら エ そして

問八

——ア～オのカタカナを漢字に直しなさい。

問九

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 支配階級と被^ひ支配階級の間の対立という従来の階級闘争ではなく、PCに賛同することでエリート意識を持つ人々と賛同しないことで無教養だと思われる人々の間の対立であるということが、ずらされた階級闘争ということである。

イ イギリスのEU離脱^{りだつ}とトランプの大統領選勝利という予想外の投票の結果が出た問題には、多くの人たちが声高^{こゝろだか}に支持を表明していた側ではない方に、実は隠^{かく}れた支持者が数多くいたという共通点がある。

ウ クリントン支持者には反金^{きん}融^{ゆう}資本主義者やLGBTを応援^{おうえん}する人々などあらゆる立場の人が含ま^{ふく}まれていたが、選挙以前からクリントン側の考えには入らない人の存在が指摘されていた。

エ 移動の自由の実現には段階があり、まずは情報が地球上で自由に動き回り、次に商品が自由に流通できるようになって、その後で人間が好きなところで暮らせる自由が実現すると考えられている。

2 次の文章は『荒地の家族』の一節で、舞台は阿武隈川河口近の宮城県逢隈(亙理町)です。これまでの主なあらすじをよく読んで、本文を読み、後の問いに答えなさい。

これまでの主なあらすじ

造園業を自営する祐治は妻の晴海を病気でなくし、残された息子の啓太と二人暮らしだった。その後、知加子と再婚するが、まもなく離婚した。父と仲が良かった六郎の子、明夫は祐治と同級生であり、かつてはよく一緒に遊んでいたが、大人になってからは疎遠になっていた。最近、祐治は明夫が重病にかかっていることや密漁を続けていることを耳にして心配していた。

新築家屋の壁を背にして祐治は石を積んでいた。現場は海に近かった。定年近い施主夫婦は広い庭が欲しくて、亙理に家を建てたという。畑や更地が辺りを占めていたが、ぼつぼつと新築の家屋が建っていた。

積む石を選んでいると、晴海や知加子の腹の中で成長をとめた子を思った。浮かんで消える想念に祐治はこたわらなかつた。死んだ人間に寄りかかっていたら、自分も半死半生だと思つた。それでも何度も立ち止まつて死者を思い、自分に何ができて何ができなかったかを考えてやりきれなくなる。人を思い出す時、ひと続きの記憶が現れるわけではない。その時に味わつた感情、手触り、痛み、苦しさが点々として残りかすのようであるだけだつた。

(1) 俺にしても死ぬ順番を待つ大行列のひとりに過ぎない。生きてる間になんにか飯を食つて啓太を育てるだけだ。

背中当たる午後の強烈な日差しが暑く、全身に汗が滲んだ。石を載せたビニールシートから高温で溶けたプラスチックのような臭いが漂つてくる。梅雨の前で湿気はなく、乾いていた。

庭を立体的にするのに、堀側に土を盛り、自然石を乱積みにして土留めを作る。ラグビーボールくらいの石からショートケーキくらいの石まで、具合のいいのを選別して積みあげていく。仕上がりに荒々しさが漂うので祐治は乱積みを好んだ。

半日を費やして、まだ三分の一も進んでいない。祐治は焦らず、一定のペースで石を積んだ。前屈みか、中腰か、しゃがんだ姿勢で重い石を扱う。

全身に負担がかかり、体力を激しく消耗した。膝や腰の関節が痛み、背中の筋肉が張る。石をひとつひとつ吟味し、傾けたり回転させたりしてA 合えばハンマーで叩いてはめ込む。うまく噛まない場合はノミと金槌で石を削る。

同じ形状が二つとない石の山から祐治はひとつ掴んだ。集中し、感覚が研ぎ澄まされ、次に積むのに具合がいい石をすぐに引き当てた。一度ではまらなくても、触れていると石のどの部分をどれだけ削ればいいのか、皮膚感覚でわかつた。やればやるほどうまくなつた。石積みは繊細で、地味で、きつかつた。

(2) ふと、なぜこんなことをしている、と考えた。造園が好きではなかつた。苦ではないという程度だつた。始めた時の気持ちは忘れたが、これでやつていくとI を決めた。明日死ぬとわかつていてもその日の工程をこなすと思つた。

その日の作業を終えると、とてつもなく体が重かつた。脱力感と倦怠感に襲われた。心なしか、腕が細くなつた気がした。

空に分厚い雲が垂れこめてB 暗く、一度降り出したら容易にやまない雨が予感された。(3) 春の陽気から一転、季節が巻き戻つたように空気が冷えた。

現場の帰り、スーパーの酒売場で祐治は明夫を見かけた。夜明け前のコンビニで明夫に声をかけてから二週間経っていた。明夫はひとりだつた。左手に買い物カゴを持ち、右手でカーボンの杖をついていた。杖を陳列棚に立てかけると、銘柄をこたわらずに缶ビールをカゴに放り込んでいた。

明夫はちらと祐治に視線をくれたが、すぐに酒の並ぶ棚に向き直つた。無視するならそれもいいが、俺の顔を見る度に舌打ちしたり、ため息を漏らしたり、あからさまに逃げたりしやがる。

明夫の態度に祐治は腹が立つた。背の小さいこついな男につき従い、こそこそと潜水スーツを着込み、重たい空気ポンペを背負い、暗黒の海に潜る明夫の姿を想像する。そんな危険なまねをしていったい何を探している。肺に宿り、肝臓、腎臓に転移したという病に蝕まれる明夫の体を祐治は思つた。

明夫は具合が悪そうだつた。少し前まで膨れていた頬の肉はそげ落ち、皮膚にたるみができている。目は落ちくぼみ、頬骨の下が黒ずんでいた。帰るところだつた祐治は買い物袋をぶらさげたまま、スナック菓子を物

色している明夫の横に立って「明夫」と呼びかけた。

返事をせずに背中を向けようとするので、もう一度「明夫」と呼ぶと、明夫は半身で振り返り、祐治のつま先に目を落として「なに」と返事をした。

「お前、やめとけよ」

「何がだよ」

「釣りだ」

「あ」

「ばれてんだよ」

「だから何がだっつってんだよ」

明夫はみるみる顔を赤くして言った。

「海、潜ってんだろ」

祐治は、杖をついて横をすり抜けていこうとする明夫を「待てよ」と押し戻して「俺でさえ現場見てんだ、日頃から見張ってる漁師連中に気づかれねえわけねえ」と言った。

「お前に関係ねえだろ」

明夫は興奮して祐治の襟元のあたりを睨んだ。

「六郎さんのために言っただよ」

祐治は顔を近づけた。

明夫は視線を泳がせた。

不摂生のせいか強い口臭が漂ってきた。

祐治はわずかに顔を背けた。

明夫はそれに気づいて、臭うか、と聞いた。

祐治は黙った。

「カビだよ、口が乾くんだ、薬の副作用で口が乾いてカビが生えんだ」明夫は言った。

「ひどそうじゃねえか」

祐治は言った。

「うるせえ」

明夫、と祐治は言った。

祐治の気遣わしげな態度が癢だったようで、明夫は「どけ」と祐治を突き飛ばすように体をぶつけて押し通ろうとした。

明夫の体はふくよかな柔らかさはなく、ごつごつとして骨張った感触だった。

85

80

75

70

65

60

55

祐治は背後から明夫の腕を掴んだ。

すると明夫は激昂して祐治の手から逃れようとして「触んな」と狂ったように怒鳴った。

「俺に触んな、お前に何がわかんだよ」

とつさに祐治は手を放した。

そのあるかなしかの一瞬、明夫の表情が燃えたぎる怒りから失望の色に変わるのを見た気がした。

買い物客が見ていた。エプロン姿のスーパーの男性店員が様子を見にくる。

明夫は祐治がついてきていないか、後ろを気にしながらカゴを持ってレジの列に加わった。

後味が悪かった。明夫と話したかったが、言うべき言葉がひとつも浮かばない。明夫の味わった艱難辛苦が重くのしかかってくる。捨て鉢になつて一刻も早くこの世から逃れたいというように酒を買い物カゴに詰め込む様子が頭を巡り、結局「なぜ明夫が」という考えに戻った。

スーパーの駐車場ではぼんやりと考えていると雨粒がぼつぼつとフロントガラスについた。彼方まで隙間なく覆う黒い雲が山から海のほうへ動き、地面がずれ動いているような錯覚を覚える。

店から出てきた明夫は黒い雲を気にする様子もなく、傷だらけの白い改造車に乗り込んでエンジンをふかすと、乱暴に走り去った。ぶるぶる震える太いマフラーから垂れた排液が、明夫の通った軌道上に黒い血のように滴って残った。

数日後、明夫が捕まったという連絡を河原木から受けたのは、朝飯を食って家を出ようという時だった。張り込んでいた漁師らに取り押さえられ、連れの男とともに警察に突き出されたという。

明夫が不調を訴えたせいで、潜らずに海から引き返すところだった。連れの男が明夫を病院へ運ぼうとしている所で、早まった漁師連中が飛び出してきたのだ。下腹部を押さえてもがくようにしていた明夫はともかく病院に搬送された。

明夫と連れの男は任意の取り調べを受けたが、潜水具を持っていただけだったので放免となった。ゴムボートの隠し場所も不明のままである。

知らせを聞いた翌日、祐治は六郎を訪ねた。知らぬ間に、六郎は縁側の籐椅子に座っていた。祐治は挨拶して畳に胡座

120

115

110

105

100

95

90

をかいた。奥さんがせんべいが入った漆の器と一緒に茶を持ってきた。(5) 六郎の視線は庭のハナミズキに注がれていて、祐治も同じところへ視線を落とした。

「今は入院してる、すっかり検査してもらって治療のやり方決めるって」
近々専門医のいる仙台の厚生病院で改めて検査してもらおうという矢先の事件だった。★岩沼の病院に搬送された明夫は厚生病院に移ってそのまま検査入院となった。

庭の奥で黒猫がうずくまって雨宿りをしている。

六郎は「どれどれ」と腰をあげ、玄関に常備してあるキャットフードを取りにいった。黒猫はツバキの下でしばらく前足を舐めていたが、六郎が表へ出ていく前に垣根を越えて向こう側に消えてしまった。

(佐藤厚志『荒地の家族』)

★巨理……………宮城県の太平洋沿岸の町名。

★カーボン……………杖などの軸に使われる軽い素材。

★岩沼……………宮城県岩沼市、巨理町に隣接する。

問一——(1)「俺にしても死ぬ順番を待つ大行列のひとりに過ぎない。」とありますが、この時の祐治の心情を説明したものとして最もふさわしい

ものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の身の回りで起きた数々の不幸な出来事を考え、生きていても仕方がないので早く死にたいと考えている。

イ 自分の記憶に残るつらい出来事がたびたび鮮明に思い出されてつらいのでこのまま生きていても仕方がないと考えている。

ウ 自分の周囲の人がさまざまな理由でこの世を去ったことを自分の人生にも当てはめ、いつの日か分からないが自分も死ぬことになるのだと考えている。

エ 自分の仕事は辛く厳しいものなので思い通りにならない人生を続けていくより、どのように死ぬべきなのかを考えている。

問二——(2)「ふと、なぜこんなことをしている、と考えた。」とありますが、祐治はなぜだと考えていますか。二行以内で説明しなさい。

問三——(3)「春の陽気から一転、季節が巻き戻ったように空気が冷えた。」

という表現がこの小説の中でどのような効果をもたらしているのか説明した次の文章の中で、最もふさわしいものを一つ選び記号で答えなさい。

ア 小説で描かれている時間が冬と春が移り変わるころのことであることを示し、明るさの中にも厳しさが含まれている状況を表現している。

イ 春の陽気が安定せず冬の寒さが戻ることを描くことで、祐治の心身が深刻な悩みを抱えており、疲労が重なっている状態であることを暗示している。

ウ 冬から春への確実な季節の移り変わりを描くことで、ここまで長く続いてきた話がいったん終わり、別の話になることを読者に示している。

エ 東北の早春がいかに厳しいものであるのかを読者に印象付け、そこに暮らす人々の心も同様に厳しく冷たいものであることをほのめかしている。

問四——(4)「言うべき言葉がひとつも浮かばない。」とありますが、それはなぜですか。二行以内で説明しなさい。

問五——(5)「六郎の視線は庭のハナミズキに注がれていて、祐治も同じところへ視線を落とした。」とありますが、この時の祐治が「同じところへ視線を落とした」のはなぜですか。四行以内で説明しなさい。

問六

I に入る身体の部位に当たる漢字一字を書きなさい。また、次の三つの慣用句においてⅡ～Ⅳに入る身体の部位を表す言葉(ひらがなでもよい)を書きなさい。

Ⅱ かじり (親や兄弟の世話になっっている人。)

Ⅲ に火をともし (ひどくけちな様子。)

Ⅳ を巻く (口もきけないほど感心する。)

問七

A C に入れる語としてふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

- ア あつさりと イ すらりと ウ からからに
 エ びたりと オ どんよりと カ ごくりと
 キ どつしりと ク ちらほらと ケ そうそうに
 コ かんかんに サ むつつりと シ ぴかぴかに

問八

次に示すのはこの文章を国語の授業で読んだ後、生徒が話し合った感想です。Aさん、Dさんの中で明らかに本文の内容や特徴に合わない一人は誰ですか。次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア Aさん 祐治は身内の不幸を数々抱えながらも、必死に生きていこうとしているね。でも、なにかそこには希望というものが感じられない気がするな。
 イ Bさん それは祐治の奥さんがなくなったり、再婚相手もすぐに離婚したりで、いいことがなかったからそうなるものも当たり前かもしれないね。
 ウ Cさん それにしても明夫はなぜ体調が悪いのに密漁などするのだろう。この部分ではその理由は分からないけれど、きっと深いわけがあるんだろうね。
 エ Dさん おそらく、それは祐治に対する憎しみが背景にあるね。六郎も祐治に対しては冷たい態度をとっているところからそれがわかるよ。

問九

この作品は二〇二二年に発表された小説です。背景には二〇一一年三月に発生した東日本大震災の津波被害という社会問題があります。この視点を加えて本文を読み直したとき、この小説の批評文として最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 震災がもたらした被害が地域の産業や経済を崩壊させ、その影響が人々の生活を苦しめているという現状を客観的な事実をあげながら述べているので説得力がある。
 イ 震災がもたらした被害は、震災直後のみならず一〇年以上たった今に至るまで現在進行形の形で存在しており、それは目には見えない人々の生き方にまで及んでいることが描かれている。
 ウ 震災がもたらした悲劇は時とともに風化し忘れ去られて行っているが、被災地では全く別の問題が発生しているという事実を読者に告発する目的が行間から読み取れる。
 エ 震災がもたらした人々への影響は深刻で歳月を重ねても薄れることとはないので、今後同様なことが起きた時にはどのようなふうなべきなのかを教訓として残そうという意図が感じられる。

